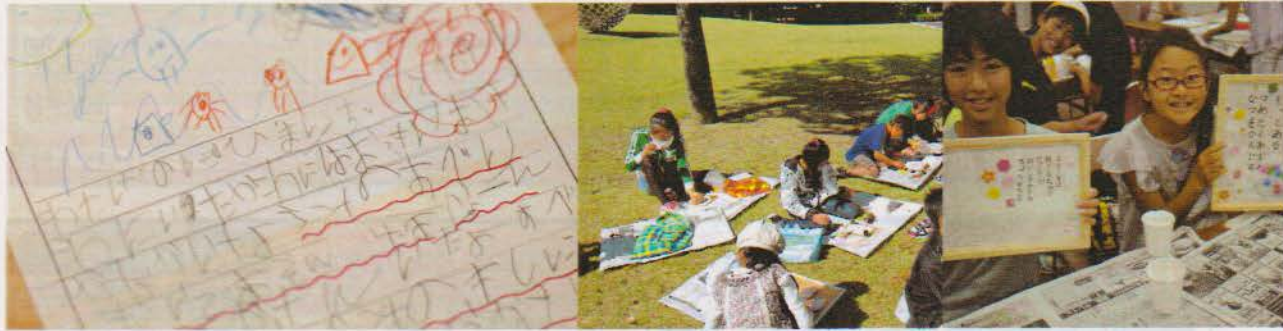


# 作文倶楽部トトロ

今度の春休みに、新年長児を対象にした特別講座「世界にひとつの絵本を作ろう！」を行う作文倶楽部トトロ。文字を書くことさえおぼつかない子どもたちに、なぜ作文なのか？その理由について、作文倶楽部トトロの岩崎美紀さんにうかがいました。



**編集部** 「世界にひとつの絵本を作ろう！」の概要を教えてください。

**岩崎** 春なのでテーマを「たね」にして、初日はテーマに沿った絵本を読んだり、ある物を手触りや匂いや音で感じる五感のトレーニングをしたりしながら、頭だけじゃなく体全部で言葉を作ることを体験します。

**編** 字が書けなくても大丈夫？

**岩崎** はい。私の聞き取りや子ども同士の話し合いの中から言葉を引き出します。「その時、どんな気持ちだった？」とか「どんな匂いがした？」などと、彼らの中のほんやりした発想を、より具体的にしながら物語を作っていきます。2日目はそこに子どもたちが絵を描いて完成。

**編** この講座を企画した理由は？

**岩崎** 子どもの作文教室を続けてきて思うのは、小さな子どもたちの心の中には、大人が想像もできないような素敵な言葉、面白い言葉が眠っているってこと。それを残したいというのが狙いです。それって今残さないと、永遠に埋もれてしまうから。

**こんな言葉、絶対思いつかない！**

**編** 普段の作文倶楽部トトロでは、どんなことを行っていますか？

**岩崎** 絵本の続きを想像したり、動

物の視線で物語を作ったり、外に出て春を探して俳句を詠んだり。ディベートや意見文に取り組むこともあります。たとえ拙くても、小学生は小学生なりに、中学生は中学生なりに、その時にしか出てこない素敵な言葉を持っています。何年後かに自分が書いたものを読んで、「こんな言葉、今は絶対思いつかない！」と笑っている子もいますよ。

**編** 高校生もいるんですよね。

**岩崎** 当初は年長から中学生対象だったのですが、「残りたい」と言ってくれる子どもが多かったの…。彼らにとっての作文は受験対策ではなく、自分とゆっくり向き合う作業。その文章に接すると、彼らが色々なことを考えているのがわかります。

**今はいっぱい遊ぶ時**

**編** 作文倶楽部トトロの目的って？

**岩崎** 自分の心と向き合っていると、自分の核がしっかりできると、例えば小論文のテストでもいい文章が書けるようになると思います。でもそこが目的ではない。やはり子どもたちには、色々な経験をし、色々な思考を重ねる中で、自分が書きたいことや面白いと感じられることを、自分で見つけられる子になってほしい。教

室を始めてから10年経ちましたが、その辺の手応えは感じています。この前、卒業生が今の生徒たちに「今はいっぱい遊ぶ時。遊ぶことでいっぱい考えるから」って言っていたのが面白かったし、頼もしかったです。

**すばらしい言葉を持っている**

**編** 今回の「世界にひとつの絵本を作ろう！」で、子どもたちにはどんなふうにごさしてほしいですか？

**岩崎** まずはいっぱいお友だちとお話してほしいです。そして自分だけの一冊を、ママに自慢してほしい。

**編** ではママへのメッセージは？

**岩崎** 子どもたちが作り出す世界を一緒に楽しんであげてください。小さな子どもは、実はいっぱい色々なことを考えていて、すばらしい言葉を持っている。ママたちはその言葉を思いっきり楽しんで、そこに共感してその言葉を残してあげてほしいです。それはきっと親子にとっての宝物になるのではないのでしょうか。

**【世界にひとつの絵本を作ろう！】**

1日目 4/6(日)、2日目 4/13(日)

※時間はお問い合わせください

会場＝山梨県立図書館交流ルーム

対象＝新年長児

参加費＝4800円(教材費込み)

TEL055-242-7511

<http://naraitai.net/school-info/juku/totoro/>



# 作文は五感を使って書くアート！ 子どもたちを魅了する作文倶楽部トトロの実践に学ぶ

## 1 フィールドビンゴ



自然の中で「アリ」「白いもの」「フワフワ」などのテーマを探して用紙に書き込んでいくネイチャーゲーム。テーマが「動物の落とし物」のときは、鳥の羽を見つけてきたり、動物のウンチを見つけてきたり。子どもたちの目のつけどころが面白い。



作文倶楽部トトロ  
代表・岩崎 美紀さん

## 2 森の色探し



専用の色見本のカードを持って、同じ色の葉っぱや木の実を探します。自然の中の色の豊かさに、子どもたちの感覚は刺激を受けて…。

## 3 サウンドマップ



自然の中で黙って耳を澄ますと、鳥の声、木々のざわめき、川のせせらぎと、さまざまな音が。聞こえた音を文字や記号、イラストなどで記録して視覚化すると、音の豊かさが見えてくる。



作文倶楽部トトロ <http://naratai.net/school-info/juku/totora/>

## 5 字のない絵本の物語

文字のない絵本を使って、その絵のイメージを手がかりにオリジナルの物語を作っていくプログラム。擬音語だけで物語を作るのも楽しい。



## 4 なりきり作文

野外で見つけた虫や花、雲や風になりきって書く作文。幼児と行う場合は、子どもの自由なおしゃべりを否定せず、そのまま聞き取り書きしてあげるのがコツ。



**Q. 作文倶楽部トトロの実践で、幼児も楽しめそうなものを教えてください。**

**岩崎** トトロは小学生以上の作文教室ですが、ネイチャーゲームの教材を使って活動することも多いです。自然の中で「ピンク」「フワフワ」などのお題を探す「フィールドビンゴ①」、色見本のカードと同じ色を探す「森の色探し②」なら、幼児も楽しめるはず。

**Q. 作文教室を野外でやるのですか？**

**岩崎** 頭だけじゃなく、五感でいろんなことを感じてほしいと思っています。表現はその後。「サウンドマップ③」は、自然の中で3分間耳を澄まして、聞こえてきた音を記録するというプログラム。そこで聞こえたものを「たんぽぽがゆれる ふわりふわり」「風の音

さあさあさらら」と言葉にしてつなげると、その子だけの詩になります。①～⑤は、作文までやらずに、単純に遊びとしてやっても面白いと思いますよ。

**Q. 他にトトロらしいプログラムは？**

**岩崎** 「なりきり作文④」は、くどうなおこさんの詩集で、自然の中で生きる動植物の視点で四季を描いた『のはらうた』にヒントを得て始めたもの。子どもたちは「くまくまみ」「たんぽぽわた子」など、動物や植物になりきってお話を作ります。

**Q. お家でできそうなものは？**

**岩崎** 「字のない絵本の物語⑤」は、文字のない絵本に自由に物語をつけていくプログラム。これからの季節だと、

太田大八さんの字のない絵本『かさ』がおすすめ。雨の季節を楽しみつつ、子どもの自由な発想で、世界で一つだけの物語ができるはず。そのときだけしか出てこない子どもの言葉が必ずあるので、それを記録しておけば、きっと親子の宝物になることでしょう。

**Q. 遊びのような、アートワークのような実践を行う理由は？**

**岩崎** 作文も表現の一つ。楽しい体験や感動を“伝えたい”と思ったときに出てくる言葉が、誰にも真似できない貴重なものだと考えます。まだ学校に上がる前の子たちも、たくさん感動してたくさん表現して、そしてそれを大人たちに認めてもらうことを積み重ねながら育ててほしいですね。



# 対談 作文倶楽部トトロ×パレットおえかき教室 ～自然の中で表現する子どもたち～

作文倶楽部トトロの岩崎美紀さんと、パレットおえかき教室の羽中田桂子さん。  
時に教室を飛び出して、自然の中で子どもたちのみずみずしい表現に心を寄せる2人の教室主宰者。  
作文と絵画、ジャンルは違っても、自然に刺激を受けて五感を働かせ、人との交わりの中で成長する  
子どもたちを見守る視線は同じ。彼女たちが、自然の中で生き生きと輝く子どもたちに見たものは…



## 岩崎 美紀

小学生から高校生までを対象とする作文教室「作文倶楽部トトロ」主宰。絵本制作や俳句、行政への意見書など多様な文章表現の教室を開講。「作文」の枠にとどまらず、子どもたちに自ら考えることや仲間と共同することの大切さを伝える。

## 羽中田 桂子

幼児から大人までが通う「パレットおえかき教室」を主宰する画家。かつて子どもたちが普通に行っていた「よりみち」にヒントを得た「よりみちアート」も企画。子どもたちが様々なアートや遊び、あるいは「小さな店長体験」を行う場に。

**岩崎** ある朝起きたら、人間以外の別なものに変身しちゃった！どうする？という「なりきり作文」や、動物や植物の目線で四季を描く作文を書いたりするんです。その時に感じるのは、普段から野外で遊んでいる子はすぐリアルに描くってこと。登場する動物やそこに吹いている風の描写が目に見えるようで、文章って頭だけで考える世界ではないんだなって、いつも教えられます。

**羽中田** 教室で「木の中にはオレンジ色だってあるよ」と言っても、「オレンジ色なんてないよー。茶色だよ」って子どもに言われちゃう。でも実際に外に連れて行くと、木の色はオレンジだったり灰色だったりするので、そこで子どもはわかってくれる。次からは木を茶色だけで塗らなくなります。素直に見て感動して、そこから生まれる表現が本物だと思うん

です。自然の中にいると、本物を見る目が養われるんですよ。

## 表現することと自然との相性

**岩崎** 作文倶楽部トトロでは、4～9月の前期は、半年かけて一つの大きな物語を書きます。そして後期は意見文に重点を置いた内容。例えば、「理想の学校はどんな学校か？」とか「遊亀動物園をもっと人気のスポットにするための企画書」とか「大人と子ども、どっちがいいか？」などのテーマをディベートしながら理解を深めて、文章を仕上げていくという流れです。でも最近では、子どもたちがあまりにも季節の移り変わりを感じていないので、外に出かけて季節を探したり感じたりする授業をあえて作っています。

**羽中田** 普段の教室では時間的な制限もあり、なかなか外に出る機会が作れない。

そこで始めたのが「よりみちアート」です。

**岩崎** どんなことをするんですか？

**羽中田** 教室から飛び出して、森の中で絵を描いたり、自然の素材を使ってアートワークをしたり。それからチョークで落書きしたり、子どもがお店を出して食べものや自分で作ったクラフトを販売したり。教室に通ってない子どもも参加OKで、アートだけじゃなく様々な体験ができるような場にしています。

**岩崎** 教室から一歩外に出ると、子どもたち変わりますよね。特に自然の中だと、教室ではおとなしい子がずっとなじみたりしてたり。「あ、今普段と全然違う面が見えた」って、嬉しく思うことがあります。

**羽中田** すごく人見知りで、普段と違った場所に行くことが全然ダメという子がいました。その子がよりみちアートに来



てくれて、初めて川遊びをするという体験をしたんです。川に足をつける。それだけですごく感動してずっとニコニコしていました。「ウチの子は外に行けない」と思っていたお母さんもビックリ。自然の中に身を置いて、そこで育つものって確かにある。お日様の光なのか、川の水なのか、風のそよぎなのかわからないけど、目に見えない何かで人は育てられていると思うんです。



**岩崎** もうすぐ3歳になる息子は、自然の中にいっぱい友だちがいる感じで、今はひたすらアリと遊んでいる。

**羽中田** ウチの子は昔、ミミズでした！

**岩崎** 本当にこれでもかかってくらいアリなんです。でもすごく楽しそうで、幸せそう。自分が自然の中に受け入れられていることを感じているような気がする。彼は月が出たら「月が出た」と言うし、朝目覚めて空に月がないとさめざめと泣くんです(笑)。この間なんかは牛乳をこぼしてテーブルの上にできた三日月のような跡を見て、「おつきさまみたい！」って喜んでましたけど、これって誰かから教え込まれてできることじゃなくて、自分で何かを感じないといけない言葉ですよね。

**羽中田** 絵も言葉も感じたことを表現するものだから、まず感じないと始まらない。自然の中には、街や家の中にはないものがいっぱい転がっているから、そういう感動を得る機会が多いんでしょうね。

**岩崎** 絵を描いたり文章を書いたりすること、自然とはとても相性がいいと思います。

### これでいいんだ！

**羽中田** 自然には同じものは一つもない。そして全部に命がある。だから子どもたちにも、命あるものはみんな違うということがわかるんだと思います。そこがわかると、自分も他人と同じじゃなくないし、ちょっと変わっている他人のことも大らかに認められる。やっぱり自然ってすごい！

**岩崎** 「これでいいんだ！」って思った瞬間に、子どもはすごく変わります。「雨の音を書いてみよう」って言っても、最初はなかなか自分の表現ができません。

**羽中田** 「ザーザー」とか「ポツポツ」とか、決まりきったところから抜け出せませんよね。素直に表現できればいいんだけど、「それちょっと変」とか「違うよ」とか言われるのを恐れて萎縮しちゃう。

**岩崎** そうなんです。でも一度そこで自分が作った言葉が受け入れられると「これでいいのさ！」ってなって、次々と出てくる。その“変な音”をみんな読んでみると面白いし、楽しいし、感動する。少しも変じゃないってことを子どもにも、そして大人にも知ってほしいです。

**羽中田** 「変だよ」「違うよ」って、親や先生が言いがちですよね。

**岩崎** そこって今の学校教育の中では、もしかしたら邪魔な部分なのかもしれないけど、カットしちゃうともったいない。

**羽中田** 私が子どもの頃、ウケ狙いでふざけて作文を書いたことがあったんです。でもその文を読んでもはめてくれた先生がいました。そういうことって子どもはずっと覚えているんです。だから私も教室ではなるべく子どもをほめたいと思うんですけど、教室にいるよりも外に出て色々やった方が、子どもをはめる機会も増えますね。子どもの様々ないい面を見ることができる。一つのモノサシだけで子どもを評価したくないし。



**岩崎** 今は学校でのお勉強が最大の評価で、場合によっては唯一の評価になっちゃってるかもしれない。だからこそ私はなるべく外に出て、子どもたちを学校の先生や親以外の普段は出会わないような大人、様々な仕事をしている大人に出会わせてあげたいって思っています。

**羽中田** 子どもたちは本来、自分で発想して何かを生み出す力を持っているけど、それを受け入れる環境が今の世の中には少ない。でもどこかでそれを認めてくれる大人に出会えれば、子どもたちはその力をどんどん伸ばしていけるはずですよ。



### 自分だけの絵や言葉を…

**岩崎** 自然には子どもたちの心を解放する力があるのかな。外で活動すると子どもたちがすぐ仲よくなるし、一人ひとりが優しくなって、みんなのことを大事に思うようになる気がします。

**羽中田** たぶんフラットになるんですよ。誰のものでもない空間で、一人の人間対人間として振る舞えるのかな？

私自身も子どもたちとの関係では、目上とか目下とか先生とか生徒とかじゃなく、人と人で接したいと思うんです。自然の中ではそれがやりやすい。一人の絵描きとして、子どもから学ぶことも多いですね。

**岩崎** 5歳なら5歳、3年生なら3年生のその時にしか出てこない言葉があるのを私も感じます。それはたとえ整ってなくてゴツゴツしたものだったとしても、誰にも真似できない本当の言葉だと思うので、尊重しなくちゃいけない。そして私は自然と子どもたち、社会と子どもたちをつなぎながら、彼らの心の内から本当の言葉が出てくるのを、ちょっとお手伝いしてあげられたらいいかな。

**羽中田** 私が子どもの頃は、川で泳いだり、柿を盗んで大人に怒られたり、近所のおばあちゃんから草笛の作り方を教わったりして、自然の中で五感を働かせて、そして人と人の接し方も学んでいたように思っています。だけど今はそういう環境にない。それはとても残念なことだけど、でも街の中にいたって、目をつぶって耳をすませば、普段聞こえない様々な音を聞くことができると思うんです。子どもはきっと、環境に応じてたくましく生きる力を持っているから。

**岩崎** そうやって成長する中で、自分にしか書けない文章を自分で見つけるように、自分だけの絵や、自分ならではの楽しいことや、自分にしかできない仕事を見つけてようになってもらいたい。それが子どもたちの幸せにつながっていくんじゃないかと思っています。私はそこに、少しでも携わることができたら嬉しいな。



# ●五感の絵本

見る、聞く、触る、感じる…子どもたちの感性を刺激する絵本



紹介者●岩崎美紀 さん  
(作文倶楽部トトロ)

**岩崎** 作文倶楽部トトロは、原稿用紙とにらめっこするのではなく、様々な体験を通して考える力や感じる力、そこから表現しようとする意欲を育てていこうという教室。小中学生が対象です。美術館で絵を見て、その絵から始まる物語を書いてみたり。春を探しに外に出て、春を描写したり。虫や動物になって“なりきり作文”をしたり。絵本を使って書くことも多いです。

**編集部** 今回は“五感”をテーマに絵本を紹介していただきたいんです。

**岩崎** 「そらいろのたね」は、私が大好きな絵本です。ゆうじくんがぎつねからもらった“そらいろのたね”をまくと、そらいろのおうちが出てくるんですが、教室でも子どもたちに本物の種を配って土に植え、「何が出てきて

ほしい？」って想像してもらって、物語作文を作っていくんです。

**編** どんなものが出てきます？

**岩崎** 面白いですよー。色んな所に行けるジェットコースターとか空飛ぶ自転車とか巨大観覧車とか。絵本そのものは、そらいろのおうちでたくさん動物たちが楽しそうにしているのを見たぎつねが「このうちはぼくのうだからね」とそれを独り占めした時…というお話。そこには「みんなと仲良くしようね」という教訓が込められていますが、子どもたちは何より「種から家が出てくるなんて！」という驚きやワクワクを楽しんでいるんです。おばあちゃんが入院している子で「何でも治っちゃう薬」を出した子もいました。

**編** その子の想いが反映されてますね。

**岩崎** そうなんです。そして例えば「イルカが出てきた」って言った子には「どんな手触り？」とか「どんな色？」とか、“五感”の表現を引き出すような質問をしてあげるんです。すると「イルカが出てきた」と、たった一文で終わっていた表現が、どんどんふくれ上がって止まらなくなる。そこにはどんな音があって、どんな匂いがしてっていう

ことを、自分が持っている感覚で書いていける。そして頭の中でモヤモヤしていたものを誰かに伝えられる。そのことは、子どもたちにとってすごく気持ちいいことなんです。

**編** 岩崎さんは、ご自身が母親になって気づいたことってありますか？

**岩崎** 子育て中って毎日ドタバタと時間が過ぎていくんだなーって。そして子どもたちが持っている言葉の大切さを知っているはずの自分が、我が子に対して「今日、保育園どうだった？」ぐらいの言葉しか交わしていないことに気づく時がありました。そんなこともあって、作文倶楽部トトロの年中・年長クラスを4月から始めることにしたんです。絵本を読んだり、外に出て体を動かしたりして五感を働かせて、そして私が子どもとむき合いながら、いつもは出てこないけど子どもたちが持っている“特別な言葉”を引き出した。そしてそれをお母さんたちにも伝えていけたらと思うんです。

**編** 小さい子でも大丈夫ですか？

**岩崎** 文字で表現できなかったら、絵でもいいし、口頭表現を私が書き留めてもいい。絶版になってしまった絵本



●あしのうらののはなし/やぎゆうげんいちろう (福音館書店1982年) / 「やわらかい」。「チクチクして気持ちいい」。足の裏は、いろんなことを感じる場所でもある…。子どもたちに、いつもと違った感覚で自分の体を感じてもらえる一冊。



●がちやがちや どんどん/元永定正 (福音館書店1990年) / 「ちんちん」「ざー」「ぶすん」。擬音語の魅力満載の絵本。シブシブな絵と“音の言葉”のリズムが心地いい。

## 第5回 Honda ベイビーくらぶ 峡西 開催致します!

**日時:** 1月20日(第3火曜日) 10:00~12:00

**会場:** 南アルプス市八田ふれあい情報館 (高度農業情報センター)

**対象:** 0才~12ヶ月までのお子様と保護者様

**申し込み方法:** 1月8日(木) AM10:00より、ちびっこはうす事務局 055-241-7521 まで、お電話にてお申し込み下さい。なお、人数は先着20名様までとさせていただきます。

**内容:** 親子スキンシップ遊び、読み聞かせ、おしゃべり&おやつなど

**参加費 無料**

※イラストはイメージです。

みなさまのご来店を  
心よりお待ちしております!

定休日・水曜日

営業時間・9:00~18:00

**Honda Cars 峡西**

〒400-0211 山梨県南アルプス市上今諏訪185  
**TEL:055(284)3345**

■南アルプス市八田ふれあい情報館  
(高度農業情報センター)  
〒400-0204 山梨県南アルプス市榎原800



で「ことばのアルバム」っていうのが  
あるんです。左ページに「愛ってなあ  
に？」とか「思いやりってどうい  
うこと？」とかの質問と絵があ  
って、右ページにそれに答えた  
子どもの言葉を書き留めるス  
ペースがある本なんですけど、  
3歳のウチの子に遊び半分で  
聞いてみたら、夢中でしゃべり  
出しました。

**編** どんなことを言いました？

**岩崎** 「さみしいなって思うのはど  
んなとき？」には「パパとママが  
いなくなっちゃうの」とか、「やさ  
しくするってどういうこと？」に  
は「りんちゃん(弟)をいい子い  
い子してあげるの」とか、小  
さい子でもちゃんと感じてい  
るんだなーと。でも、「どんな  
ときに自信がわいてくる？」に  
は「防災頭巾をかぶること」で  
したが…。保育園で防災訓練  
をしたばかりだったんですね  
(笑)。まあ、それもアリかな  
と思います。

**編** それも“特別な言葉”であると。

**岩崎** 教室でも大人が「えっ!？」  
っと思う言葉が次々出てくる。  
擬音語の授業で「がちゃがちゃ  
どんどん」という絵本を使う  
ことがありますが、次から次  
へと子どもたちはオリジナル  
の擬音語を作り出していきます。  
足音、



## そらいろのたね

なかがわりえこ・作、おおむらゆりこ・絵  
(福音館書店 1967年)

雨の音。大人には絶対考えられない  
貴重な言葉に感動します。

**編** その面白さや輝きに、大人たちが  
気づいてほしいですね。

**岩崎** 私、大人からの押しつけのない  
五味太郎さんの絵本や、子ども  
の感性ってすごいんだよって  
聞いてくる灰谷健次郎さんの  
小説「天の瞳」が好きなんです。  
「天の瞳」は子どもに勧める  
んですけど、お母さんがハマ  
ってしまい「もっと早くこの  
本に出会いたかった。もっと  
早く読んでいたら自分の子  
育てが変わってたかも」っ  
て言ってくれた方もいました。  
なのでお母さんたちにはぜひ  
、おすすめしたいです。



### 【作文倶楽部トトロ】

2児の母親でもある岩崎美紀さんが主宰する、  
子どもたちのための作文教室。対象は小学1年  
～中学3年。子どもたちの感性や表現する力に  
重きを置くスタイルで、「なりきり作文」や  
短見文、一つのテーマを元にストーリーを紡ぎ  
出していく物語作文など、様々な文章の制作  
に取り組んでいます。2009年4月からは年中・  
年長クラスも開講。現在、生徒募集中です。

●甲府市高畑1-7-26  
TEL095-222-6647



### しゅくだい

●しゅくだい/いもようこ・作  
&絵、宗正美子・原案(岩崎書店  
2003年) / “もくくん”のクラ  
スの宿題はなんと「おうちの人  
にだっこしてもらおう」こと！  
作文倶楽部トトロでもこの宿  
題を出したところ「心臓の音  
がした」「お化粧の匂いが  
した」「ぶにぶにだった」と、  
感想も様々だったとか。



### 天の瞳

●天の瞳/灰谷健次郎(角川  
文庫1999年) / 保育園児の  
倫太郎はいつもいたずらばかり  
で大人たちを困らせる存在。  
しかしその豊かな感性や優し  
さにやがて大人たちは気づき  
始める…。子どもを描き続  
けた灰谷健次郎の代表作とも  
言える小説。

肌は知っている。

肌は 知っています。

必要以上に 与えることの あやまちを。

そして何が 本当の美しさを 引き出すのかを。

それは、水から始まる物語。アルソア伝説

☎ 0120-301-742 | 9:30~17:00 (土・日・祝日を除く) | www.arsoa.co.jp

株式会社アルソア本社



ARSOA  
アルソア化粧品